

## 浜の活力再生プラン (第 2 期)

### 1 地域水産業再生委員会

組織名	泉南地区地域水産業再生委員会 ID : 1121008
代表者名	会長 角井 秀喜

再生委員会の構成員	岡田浦漁業協同組合、泉南市産業観光課（泉南市役所）
オブザーバー	

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	大阪府泉南市、泉南地区（岡田浦漁業協同組合員 62 名）、小型底引き網漁業（26 名）船引き網漁業（5 名）あなご罾漁業（15 名）、ワカメ養殖漁業（6 名）、刺網漁業（18 名）兼業を含む延べ 70 名(重複あり)
-------------------	--

### 2 地域の現状

#### (1) 関連する水産業を取り巻く現状等

<p>・当地域は大阪府泉南市岡田浦に位置し、前方には関西国際空港、淡路島、明石海峡を望み、四季折々に様々な魚介類が水揚げされている。小型底びき網漁業、船びき網、あなご罾漁業等の漁船漁業及びわかめの養殖漁業を営み、漁獲される魚種はいかなご、しらす、真鯛、すずき、あなご、たこなど 50 種類を超えている。小型底びき網、刺網等で水揚げされる魚介類は当組合の市場で競りに掛けられ、競り落とされた魚介類は地元の鮮魚店や大阪市など消費地市場へ出荷されている。漁業者は水揚げされる魚介類の品質には絶対の自信を持っているものの漁獲量は減少傾向にあり、一年を通しての安定・大量供給は困難となっている。さらに産地仲買人の高齢化及び仲買人自体の減少もあり、新規仲買人の参入がないのが現状である。加えて消費者の魚離れ、調理方法がわからないなど、魚食文化自体の劣化といった実態も浮かび上がっている。</p> <p>漁師の高齢化、後継者・若手不足、漁獲量の不安定さに加え燃油料の高騰や漁具関係物品の価格上昇による漁労支出の増加で厳しい状態である。</p>
--

#### (2) その他の関連する現状等

<p>・上記の漁業所得の不安定さを少しでも改善するために産地仲買人の協力のもと、当地区では数年前より日曜青空朝市を開催し、地産地消を消費者に P R してきたが、最近では来店者も減少し、これに伴い店舗が撤退する中で、新規の出店もない厳しい現状である。また、わかめの養殖を数年前より開始し、昨年には加工場を設立し、商標登録を取得しブランド化に向けて売り出してい</p>
---

る。消費者の認知度はまだまだ低いため宣伝を強化すべきところであるが、製品供給は、水温の異常変化が原因と考えられる泥、虫等の付着物の発生により生産が減少するなど不安定な状況である。

- ・漁業不況を見据えて 40 歳までの若手漁師が集まり、平成 14 年 3 月に「明日を考える会（青年部）」を設立し、地引網体験・体験漁業・BBQ などといった活動を行ってきたが、マンネリ化に加え近隣漁協も同様の事業を開始したため、客入りは減少の一途を辿っている。

- ・今後当地区では、従前の諸取組みを継続しながら、その不採算原因となるマイナス要因を徹底的に洗い直し、改善を図り、併せて泉南市の観光資源になっている岡田浦漁港内の砂浜に咲くハマヒルガオの活用の検討、直売店や企業誘致による流通改革・魚価向上策など一連の収入向上策と漁業の協業化及び省燃油活動の推進などによるコストカット策の両方を同時に進め、以って漁業者をはじめ地域全体の所得向上を図っていきたいと考えている。

- ・上記の状態がここ数年続いており、浜の活力の取組により改善・上昇もしたが劇的な改善はなくまたその状態が停滞しているのが現状である。

- ・冷蔵庫の増設や水槽の水温上昇等に伴い年々光熱費が上昇しており、施設内の電気系統設備の老朽化による修繕や大幅な改修の必要性が高まっている。太陽光発電や風力発電等の自然エネルギーによる発電の導入の検討も視野に入れていく必要がある。

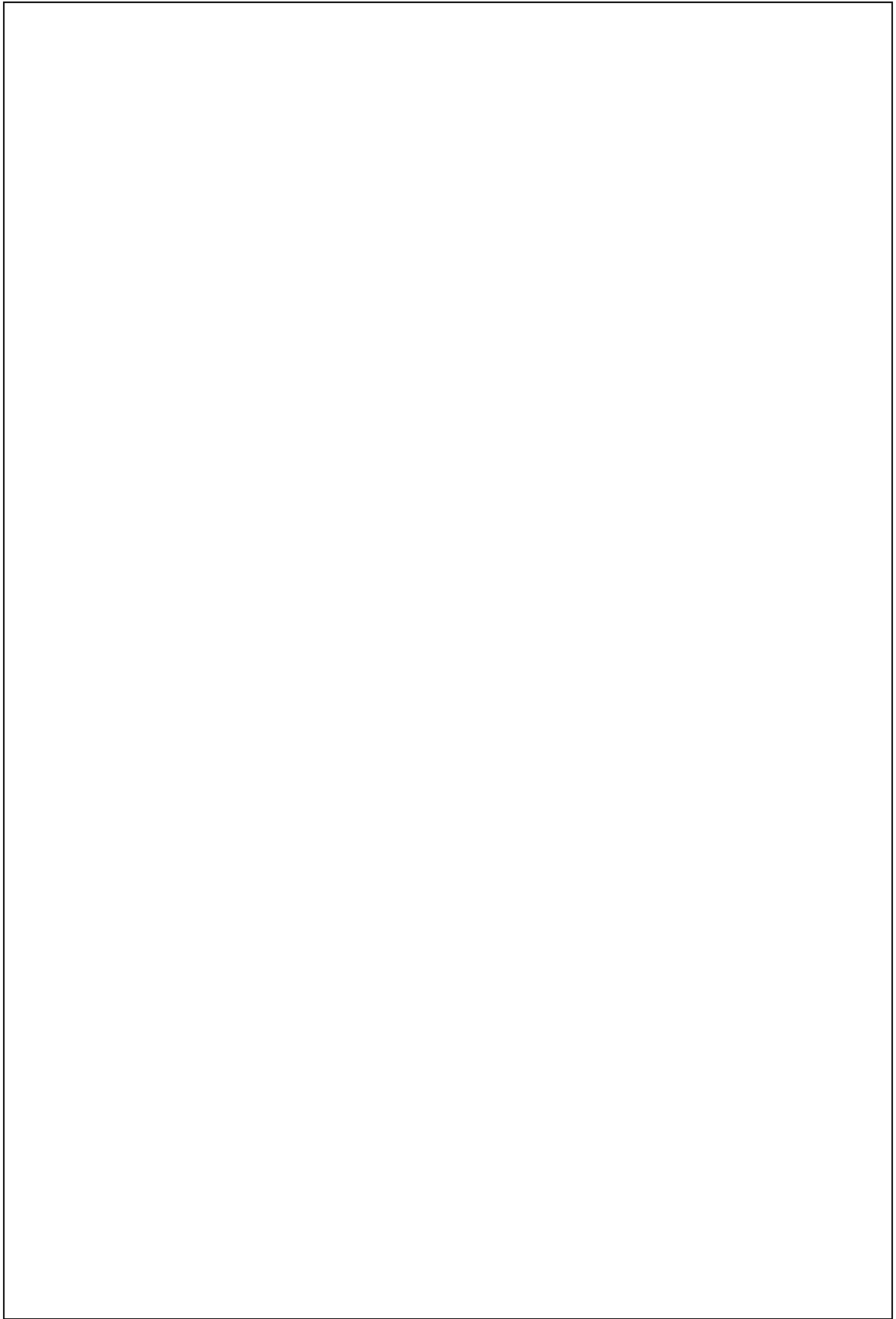
- ・全体的には漁業への関心や魚食は減っているが荷捌き場での競り見学者は年々増えており個々による漁業や魚食への関心が高まっておりよい傾向である。ただ荷捌き場での見学スペース等が限られており本来の競り風景を十分に見学してもらえず、漁業者や仲買人の仕事の妨げになることもある。

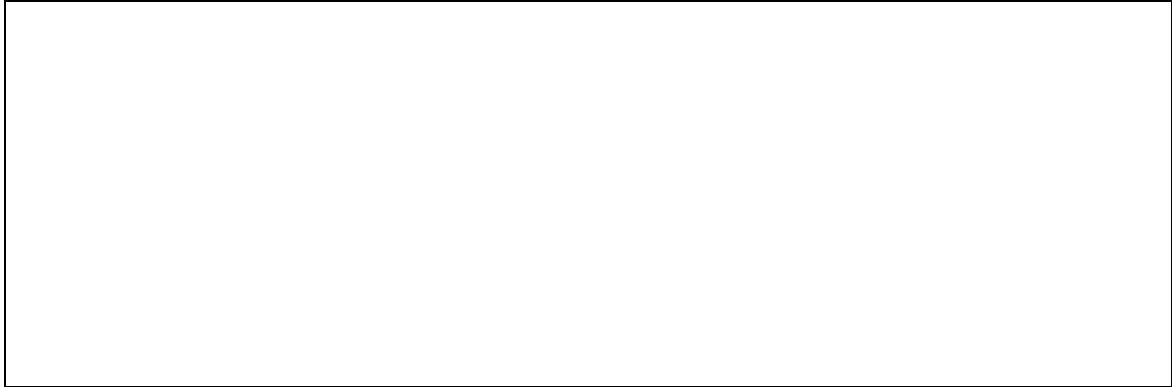
- ・荷捌き施設・ガレージ・組合事務所・電気系統設備等ほとんどの施設や設備が老朽化してきており改修や再建の必要が出てきた。

- ・平成 27 年より産官学でアナゴの養殖事業を岡田浦漁港内の施設で開始した。

### 3 活性化の取組方針

#### (1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等





(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

<p>1. 漁業収入向上のための取組</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○1 期目で取組効果があり 2 期も継続するもの<ul style="list-style-type: none"><li>・地元産水産物の認知度向上</li><li>・食育を通じた魚食普及と地産地消の推進</li><li>・観光との連携（朝市を除く）</li><li>・漁場環境の保全等</li></ul></li><li>○1 期目で効果が出なかったものを、手法等を見直して継続するもの<ul style="list-style-type: none"><li>・観光との連携（朝市）</li><li>・わかめ養殖業における品質向上</li></ul></li></ul> <p>2. 漁業コスト削減のための取組</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○1 期目で取組効果があり 2 期も継続するもの<ul style="list-style-type: none"><li>・省燃油消費量の抑制</li><li>・セーフティネット構築事業への加入の促進</li></ul></li></ul>
---

(3) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

<p>漁業法及び大阪府漁業調整規則による規制のほか、漁業者間で自ら約定する自主資源管理を進め、漁業資源の維持・安定化に努める。</p>
---

※プランの取組に関連する漁業調整規則や漁業調整委員会指示等について記載する。

(4) 具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）

1 年目（令和元年度）以下の取組を実施し、漁業所得 5%向上を図る

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・前期の取組を活かしつつ反省と改善を検討しながら実施する。</li><li>・地産養殖わかめ・青空朝市・豊かな魚介類等の P R 強化や、泉南市主催イベント等への参加を通じて、岡田浦産、岡田漁港への認識を高める。</li><li>・わかめ養殖漁業者による、購買力の高いわかめ加工品開発を強化する。安</li></ul>
---------------------	---

	<p>定したわかめの種の確保に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全漁業者が主体となり海底耕耘や稚魚の放流、アマモ等漁場環境の保全活動を実施する。</li> <li>・これらの取組により漁業収入を1%向上させる。</li> </ul>
漁業コスト削減のための取組	<p>セーフティネット構築等事業へ加入を更に推進する。</p> <p>定期的な船体清掃や減速航行など省燃油活動を推進する。</p>
活用する支援措置等	競争力強化型機器等導入緊急対策事業

2年目（令和2年度）以下の取組を実施し、漁業所得5%向上を図る

漁業収入向上のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年目の取組の結果で継続・拡大・反省と改善を検討しながら実施する。</li> <li>・泉南市主催イベント以外への参加も増やし、岡田浦産、岡田漁港への認識を高める。</li> <li>・わかめ養殖漁業者による、購買力の高いわかめ加工品開発を強化する。安定したわかめの種の確保に取り組む。</li> <li>・全漁業者が主体となり海底耕耘や稚魚の放流、アマモ等漁場環境の保全活動を実施する。</li> <li>・これらの取組により漁業収入を1%向上させる。</li> </ul>
漁業コスト削減のための取組	<p>セーフティネット構築等事業へ加入を更に推進する。</p> <p>定期的な船体清掃や減速航行など省燃油活動を推進する。</p>
活用する支援措置等	<b>浜の活力再生プラン推進事業</b>

3年目（令和3年度）以下の取組を実施し、漁業所得8%向上を図る

漁業収入向上のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年目の取組の結果で継続・拡大・反省と改善を検討しながら実施する。</li> <li>・大阪や東京で行われる食品イベントへ出展し、岡田浦産、岡田漁港への認識を高める。また他出展者と情報交換・共同制作等の交流を広げる。</li> <li>・わかめ養殖漁業者による、購買力の高いわかめ加工品開発を強化する。安定したわかめの種の確保に取り組む。</li> <li>・全漁業者が主体となり海底耕うんや稚魚の放流、アマモ等漁場環境の保全活動を実施する。</li> <li>・これらの取組みにより漁業収入を1.5%向上させる</li> </ul>
漁業コスト削減のための取組	<p>セーフティネット構築等事業への加入を更に推進する。</p> <p>定期的な船体清掃や減速航行など省燃油活動を推進する。</p>

活用する支援措置等	
-----------	--

4年目（令和4年度）以下の取組を実施し、漁業所得8%向上を図る

漁業収入向上のための取組	<p>過去3年間の取組と結果を見て浜プランの修正も視野に入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・可能であれば他社と製品の共同制作を始める。</li> <li>・地産養殖わかめ・青空朝市・豊かな魚介類等のPR強化や、泉南市主催イベント等への参加を通じて、岡田浦産、岡田漁港への認識を高める。</li> <li>・わかめ養殖漁業者による、購買力の高いわかめ加工品開発を強化する。安定したわかめの種の確保に取り組む。</li> <li>・全漁業者が主体となり海底耕うんや稚魚の放流、アマモ等漁場環境の保全活動を実施する。</li> <li>・これらの取組みにより漁業収入を1.5%向上させる</li> </ul>
漁業コスト削減のための取組	<p>セーフティネット構築等事業への加入を更に推進する。</p> <p>定期的な船体清掃や減速航行など省燃油活動を推進する。</p>
活用する支援措置等	

5年目（令和5年度）以下の取組を実施し、漁業所得10%向上を図る

漁業収入向上のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他社と共同制作した製品を泉南市主催のイベントや大阪・東京で行われる食品イベントに出展する。</li> <li>・地産養殖わかめ・青空朝市・豊かな魚介類等のPR強化や、泉南市主催イベント等への参加を通じて、岡田浦産、岡田漁港への認識を高める。</li> <li>・わかめ養殖漁業者による、購買力の高いわかめ加工品開発を強化する。安定したわかめの種の確保に取り組む。</li> <li>・全漁業者が主体となり海底耕うんや稚魚の放流、アマモ等漁場環境の保全活動を実施する。</li> <li>・これらの取組みにより漁業収入を2%向上させる</li> </ul>
漁業コスト削減のための取組	<p>セーフティネット構築等事業への加入を更に推進する。</p> <p>定期的な船体清掃や減速航行など省燃油活動を推進する。</p>
活用する支援措置等	

(5) 関係機関との連携

泉南市産業観光課と養殖アナゴや朝市等イベントの計画や広報で協力してもらっている。

4 目標

(1) 所得目標

漁業所得の向上 10%以上	基準年	平成 25 年度～平成 29 年度平均： 漁業所得
	目標年	令和 5 年度： 漁業所得

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

再生員の漁業収入から漁業コストを差し引いた漁業所得(平成 25 年度～平成 29 年度平均値)

(3) 所得目標以外の成果目標

小型機船底びき網漁業の競り市場販売での魚価平均 5% 向上	基準年	平成 26 年度～平成 30 年度 5 中 3 平均 ： 2,661 円
	目標年	令和 5 年度： 2,794 円

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

小型機船底びき網漁業者が競り市場で販売している主な 7 魚種を合計した平均値 (平成 26 年度～平成 30 年度タイ・ヒラメ・ハモ・ジャコ・カニ・タコ・ナゴヤフグ)

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
競争力強化型機器等導入緊急対策事業	省燃油活動・漁業コスト削減